



日本の公認会計士として日本及びインドネシアの大手監査法人勤務を経て、日本の会計税務及び親会社の考え方にも精通しながら、時には日本本社へも出向いてサービス提供。会計税務を中心とした日常的業務のお手伝いから、新規進出や組織再編、M&A など幅広い側面で日系企業を支援。

「ラマダンとレバラン（1）」

今回はインドネシアで行われているラマダン（断食）とレバラン（断食明け休暇）について記載します。

インドネシアでは人口の90%以上がイスラム教とされていますが、宗教の自由が原則的には認められており、各宗教にちなんだ祭日が制定されています。形式的には多くの祭日が平等に設けられているのですが、国民の90%以上が信仰するイスラム教に由来する祭日は特に国全体が「お祭りモード」に包まれます。このモードは特に帰省ラッシュとなって現れ、交通は完全に麻痺することもあるほどです。

＜ラマダン（断食する1か月）＞

アラビア語で「断食する1か月」のことをラマダン（Ramadan）といいます。世界中のイスラム教徒は年に一度一斉に断食を行います。この断食を行う時期は、イスラム教の祭事がイスラム歴（太陰暦）で行われることから、私達が日常的に使っている太陽歴では、毎年11日程度、前にずれていきます。

断食の日は、日の出から日没までの飲食が禁じられており、日の出前にサフルという軽食を食べたら、日没までは食べることも、飲むこともしてはいけません。そして日没を迎えると、イフタルという軽食をとり、お祈りをして、その後に家族や友人と大勢で食事をとります。断食を行うことが困難な人、例えば、老人、病人、子供、旅行者、重労働の従事者などは免除され、断食が可能な状況になったら、各々が自発的に断食を開始することになっています。また、老人や回復する見込みのない病人などは、喜捨（寄付のようなもの）をすればいいことになっています。生理中の女性は不浄ということで、コーランを読んだりお祈りをする事も禁止されています。

＜ラマダン中の決まり事＞

ラマダン中はいろいろと決まり事があり、「やってはいけない事」と「やるべき事」があります。

「やってはいけない事」は、飲食や嗜好品（タバコなど）の利用や性行為も禁じられています。「やるべき事」は、コーランをよく読み、お祈りに励み、貧しい人に喜捨したり、人生について考える等です。この

ような行いでイスラム教の聖なる月であるラマダン中に徳を積むことで、今までの罪が許され、望みがかなうと言われていています。特にラマダンの最後の10日間は大事な時期であり、お祈りに励むと言われていま

＜レバラン＞

断食開始から30日後、断食が空けた次の日のレバラン（インドネシア語）は公式にはイドゥル・フィトリと言われる祝日です。この日の朝、信者は真新しい晴れ着で礼拝所へ行き、お祈りを捧げ、家族や友人と集まって食事を楽しみます。道で人に会えばイドゥル・フィトリの挨拶をしたり、遠くに住む近親者や友人にはメッセージを送ります。

＜在住日本人の気遣い＞

在住の日本人は断食はしませんが、それなりに気を遣っている人は多いと思います。日中の食事は、なるべくイスラム教徒の目に入らないところで取りまですし、レストランでは区切られて見えないようになっていたりします。就業時間も、昼休みを通常の1時間から30分へ変更して、帰宅時刻を早めることも多いです。

※この時期の注意点として、ドライバーやタクシー運転手の居眠り運転です。私も何度も居眠りするタクシー運転手の車に乗り、彼らを起こしながら移動したことがあります。



【ジャカルタのモスクの内部】